

中学校・高等学校 創設100年

1917（大正6）年11月4日、現港区南青山に私塾として産声をあげた国士館は、その2年後に世田谷の現在地に移転し、高等部を開設する。1923年に中学校・高等学校の前身となる中等部を開き、1925年には法令に基づく国士館中学校を創設して、地域の青少年に向けた中等教育を開始した。また、1926年に創設した国士館商業学校は、その後の定時制課程の淵源となる。戦後には新たな教育制度のもとで、新制・中学校および高等学校を設置して現在に至る。

2023年、時代の変遷と共に移り変わる社会の期待に応じつつ発展を遂げ、創設100年の節目を迎えた。



中学校・高等学校校舎（1994年）

中等教育のはじまり

国士館における中等教育の歴史は、1923(大正12)年の中等部開設にはじまる。1925年には中学校令に基づく国士館中学校を創設し、専用校舎も整備した。教育課程には国語・漢文のほか、外国語や博物、また文部省の規定よりも週2時間多い体操・武道を開講し、現在も受け継がれる文武両道の教育を実践する。

1926年に創設した国士館商業学校は、中学校の授業がない夜間に校舎を活用して、地域の勤労青年に向けて実業教育を実施した。市街地化や商家の増加により、商業教育を求める地域の期待に応えた。



旧制中学校校舎 (1928年頃)



中学校生徒の通学風景（1937年）



商業学校の珠算授業（1940年）

新制中学校・

高等学校の創設

1946（昭和21）年、戦後の占領政策の影響を受け、校名は、「至徳」に変更となり、新教育制度にに応じて1947年に至徳中学校を、翌1948年に至徳高等学校を創設した（1953年に「国土館」に復称）。

当初、高等学校には全日制普通科と、旧制商業学校の伝統を引き継いだ定時制商業科を設けた。

その後、日本の高度経済成長などを背景として、1963年に工業科を設置し、翌年には中学校・高等学校専用校舎（現8号館）を整備した。1994年には定時制商業科を発展解消し、定時制普通科へと改組した。



至徳高等学校の生徒（1951年頃）



中学校高等学校校舎 8号館 (1964年)



高等学校工業科（機械科）の授業 (1967年)

飛躍する

中学校・高等学校

1994（平成6）年、中学校・高等学校は、男女共学化（高等学校定時制普通科は2004年）へ移行するとともに、制服を蛇腹の詰襟からブレザーへと一新した。また、同年には新たに専用校舎を整備するなど、その教育環境は大きく飛躍を遂げた。

その後、多様化する社会のニーズに応えて、高等学校は2000年に通信制課程を新設し、定時制普通科では2004年から昼間授業へと段階的に移行した。

2008年にはグラウンドの人工芝化、2015年からは放課後の自学自習を支援するシステム「K-improve」の導入など、学習環境の充実に取り組み、今日に至っている。



男女共学化へ移行（1994年）